

因陀羅網 Indra's net ~ 今、ここでコミュニケーションを生きる

クロンピ ~ 風が吹く ~

田恩伊 (チョン ウニ)

「チェジュ平和祭 2014」

数日前に、韓国のチェジュ島からメールが送られて来ました。数年前からチェジュ島に住みながら映画を作っている映画監督の友人からでした。北海道をはじめ、日本の何カ所かで彼が見つけた「クロンピ、風が吹く」というドキュメンタリー映画が上映されるようになったので、日本語の字幕を少し見てほしいという内容でした。今年の春に沖縄の市民グループのための上映会が行われたようですが、9月14日には北海道で、9月20日から10月3日までは沖縄で一般劇場の特別上映会が予定されているらしく、字幕をもう少しだけ繊細に見てもらいたい、という依頼でした。映画はまだ見ていませんが、映画の舞台になっている「カンジョン・マウル(村)」なら「日韓青年平和の旅」という企画で、2012年日本と韓国の青年たちをつれて訪ねたこともあり、大体の内容を知っているところから、小さな力でも貸すことにしました。しかし、少し健康問題に異常が生じてしまい、対外的なことすべてを休むことにしている私が、この作業を断れず受け入れるようになった最も大きな理由は、この話しが持ち込まれた少し前に「チェジュ平和祭 2014」の情報を接していたからです。この二つの話しは全く関係のない方向から私のところに届きましたが、私には一つにつながるものだと考えられました。

二日前には、この平和祭の日本側の主催者たちが朽木村に集まってプレイベントを行ったという話を聞いています。かの

有名な作家パールバック女史は友人宛の手紙に「朝鮮の秋空を四つに折って手紙に入れて送りたい」と書いたそうですが、平和祭が行われる10月の韓国は、限りなく深く美しい青空の季節です。コバルト色の深い青空とチェジュ島のゆったりと流れていく風景は、きっと平和を望んで集まってくる人々の心を祝福し、今までに無かった強い連帯感を体験させてくれるに違いありません。今回の平和祭はどのような人たちが主催して、どういう形で行われるものだろうか、実は詳しい内容は私に分かりません。しかし、少しだけつかんだ情報から測ってみると、日本と韓国の中に今まではあまり考えてこなかった新しい視点があり、「コミュニティ・共同体」に対する認識とも通じるところがあるように思えます。

地域とグローバル化 (Glocalization)

最近「グローバル化 (Glocalization)」という言葉が注目されるようになりました。これは「世界全体」のことを「地域」と同時に考えて行こうとする最近の視点で、ここで言う「地域」という言葉は単なる「地域社会」という意味だけではなく、地球という単位から考えた時に、それぞれの部分を「地域」と見なすという意味が含まれているものだと思います。従って、アジア地域、イスラム地域、東アジア地域などの表現が可能となりますし、さらに言えば「韓国地域」「日本地域」といった表現も可能だと受け止めてもよいかと思えます。今は東アジア全体に異様で気味の悪い陰悪な雰



囲気が漂っている時代ですが、こうした時に国・国家という考え方でお互いを定義づけるのではなく、少しばかり考え方をスイッチして「地域」という発想から考えてみると、どこかでお互いのいなか(故郷)が聞きたくなるような気持ちになるかも知れません。

私が取り組んできた「コミュニティ・共同体」関連の連載は、こうした考え方を下敷きにしたものでした。最近日本では、エコビレッジ、コレクティブ・ハウス、コーハウジング、シェア・ハウス、…ファミリー、トランジション・タウン、パーマカルチャー、コミュニティ・デザイン・・・など、共同体的な動きに対してこうした表現が頻繁に使われるようになりました。これは上で言及したグローバル化という認識とも通じるものだと考えられます。また、

